

地方創生カレッジアンケート集計結果

2020年3月
(公財)日本生産性本部

【調査概要と回答結果】

【調査の概要】

1. 調査概要

(1) 調査期間: 2019年8月9日(金)～19日(月)

(2) 調査方法

地方創生カレッジに登録されているメールアドレス宛アンケート実施の案内を送付
回答方法として、webでの回答とFAXでの回答を用意

(3) 送付件数

①8月9日 17,766件

②8月16日 17,763件

(4) 回答数: 829件 (内訳: web 816件、FAX 13件)

【調査の区分について】

1. 市町村区分

住民基本台帳(2018)により、下記区分で分類する。

(1) 県庁所在地

(2) 政令指定都市

(3) 人口30万人以上

(4) 人口10万人以上

(5) 人口5万人以上

(6) 人口5万人未満

2. 職業区分

① 地方公共団体・政府機関・その他公的機関の合計

② 金融機関(都市・地方・信金・信組・その他の合計)

③ コンサルタント業・シンクタンク・公認会計士・税理士・弁護士・中小企業診断士の合計)

④ 卸小売業・鉄道業・バス業・旅行業・飲食業・宿泊業・その他サービス業の合計

3. 役職区分

① 経営層

② 管理職(部長・課長等)

③ 非管理職(一般従業員等)

④ 個人事業主

⑤ その他・無回答

4. 年齢区分

① 29歳未満

② 30～39歳

③ 40～49歳

④ 50～59歳

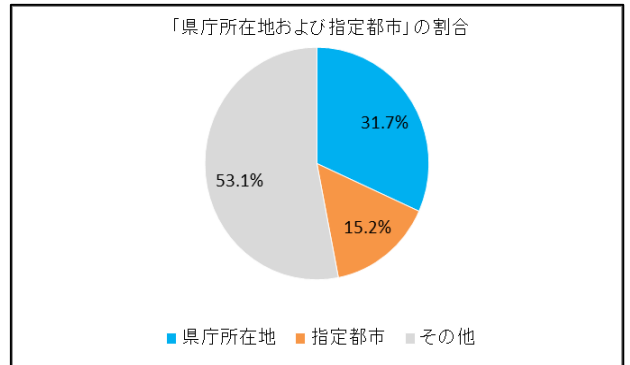
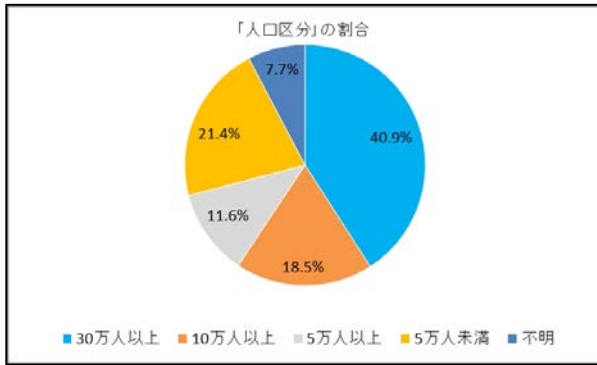
⑤ 60歳以上

1. 回答者の属性

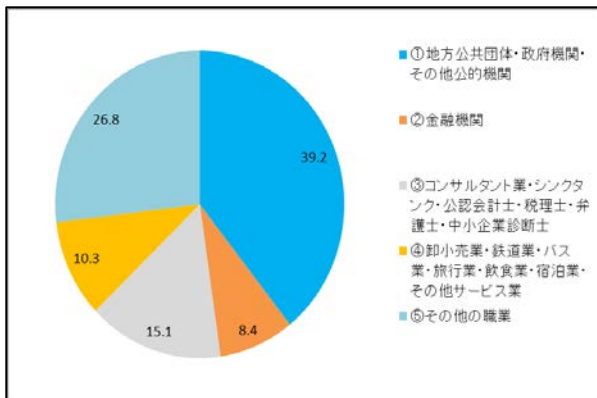
(1) 市町村区分

30万人以上が4割強、5万人未満が2割強、10万人以上が2割弱

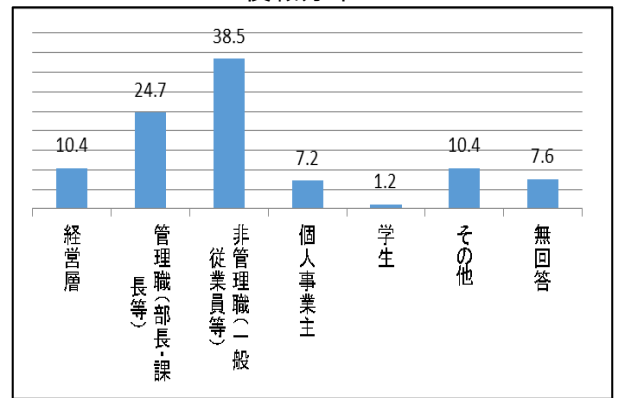
30万人以上に含まれる割合の高い「県庁所在地32%弱」「政令指定都市15%強」



職業分布



役職分布



(2) 職業

- ・地方公共団体・政府機関・その他の公的機関 39.2%。
- ・コンサルタント系 15.1%。
- ・卸小売業・鉄道業・バス業・旅行業・飲食業・宿泊業・その他サービス業10.3%
- ・金融機関 8.4%
- ・その他は、製造業・建設業・農林水産業 学生・無職等の合算 26.8%

(3) 役職

- ・経営層 10.4%
- ・管理職 24.7%
- ・非管理職 38.5%
- ・個人事業主 7.2%

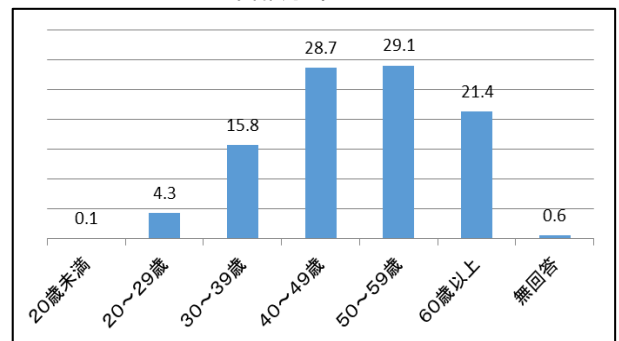
(4) 年齢

- ・20歳未満 0.1%
- ・20～29歳 4.3%
- ・30～39歳 15.8%
- ・40～49歳 28.7%
- ・50～59歳 29.1%
- ・60歳以上 21.4%

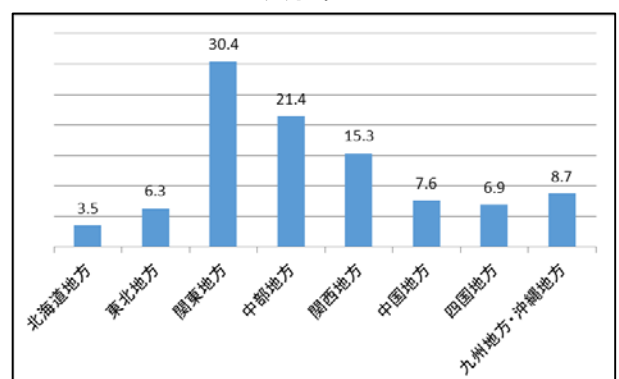
(5) 地域

- ・関東地方、中部地方、関西地方で全体の7割弱を占める構成となっている。

年齢分布

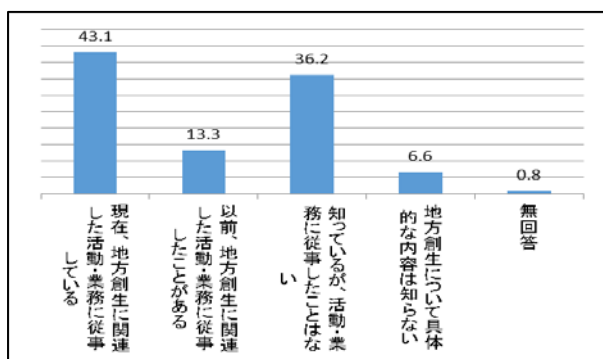


地域分布



2. 各設問の回答の分布

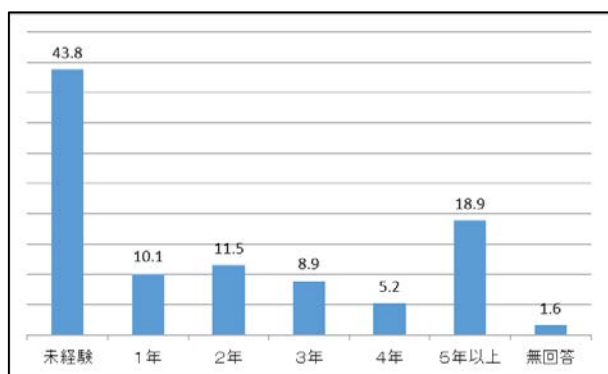
Q1. 地方創生への関与度合(程度)についてお聞きします



Q1について

「現在」と「以前」地方創生に関連した活動・業務に従事しているとの回答の合計が56.6%と過半数となった一方で、「知っているが、活動・業務に従事したことはない」の回答が36.2%と、地方創生に対して関心はあるが活動していない潜在的な層が一定数存在することが窺える。

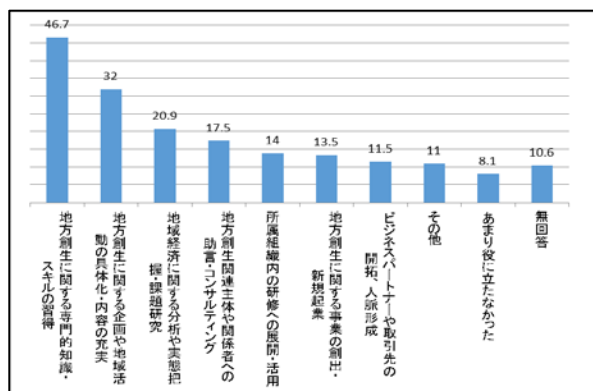
Q2. 地方創生に関する業務経験についてお聞きします



Q2について

「未経験」が43.8%、「5年以上」が18.9%と二極化した結果となった。地方創生に関する活動に当初から関与してきた第1世代といえる方々が多いと考えられる。

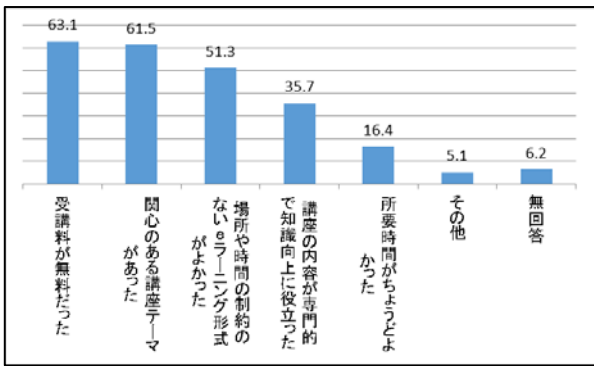
Q3. どのような実務や地域活動に活かされましたか〔複数回答〕



Q3について

「地方創生に関する専門的知識・スキルの習得」「地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実」「地域経済に関する分析や実態把握・課題研究」がベスト3となった。特に、「地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実」が3割強と、地方創生に関する実践的な活動にも一定程度活用されていることが窺われる。

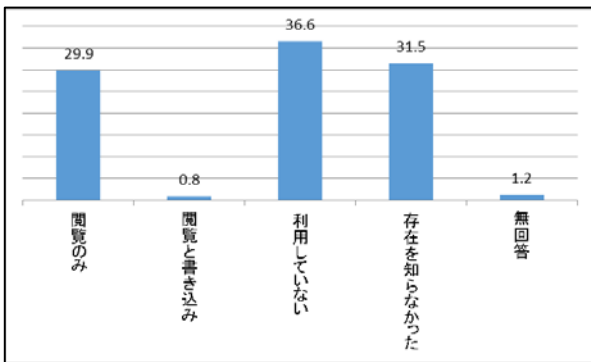
Q4. 地方創生カレッジの良かった点をお聞かせください〔複数回答〕



Q4について

「受講料が無料だった」「関心のある講座テーマがあった」「場所や時間の制約のないeラーニング形式がよかった」がそれぞれ過半を超えた。経済的および地域的な制約なく受講できることが一定の評価を得たと考えられる。

Q5. 地方創生カレッジの関連サイトの「連携・交流ひろば」の利用状況についてお聞かせください

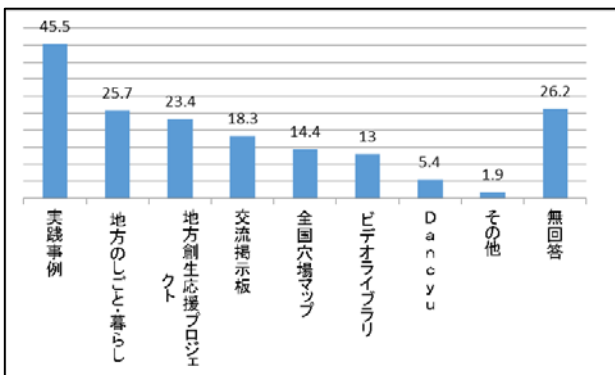


Q5について

「地方創生 連携・交流ひろば」の利用は「閲覧のみ(29.9%)」が中心であり、「利用していない(36.6%)」、「存在を知らなかった(31.5%)」が多いことを踏まえると、「地方創生カレッジ」と関連付けた周知・広報活動やサイトの利便性向上などの工夫が必要と考えられる結果となった。

(2020年3月にサイトリニューアルを実施)

Q6. 「連携・交流ひろば」における以下のコンテンツのうち、特に関心のあるものをお聞かせください〔複数回答〕



Q6について

「実践事例」が45.5%と高い支持を得た。自分たちと同じような課題への取り組みが参考資料として評価を得たと考えられる。また「地方のしごと・暮らし」が第2位(25.7%)となったことは、地方での仕事や就業についての関心の高さが窺われる。

3. Q3の詳細分析

(1)市町村区分別

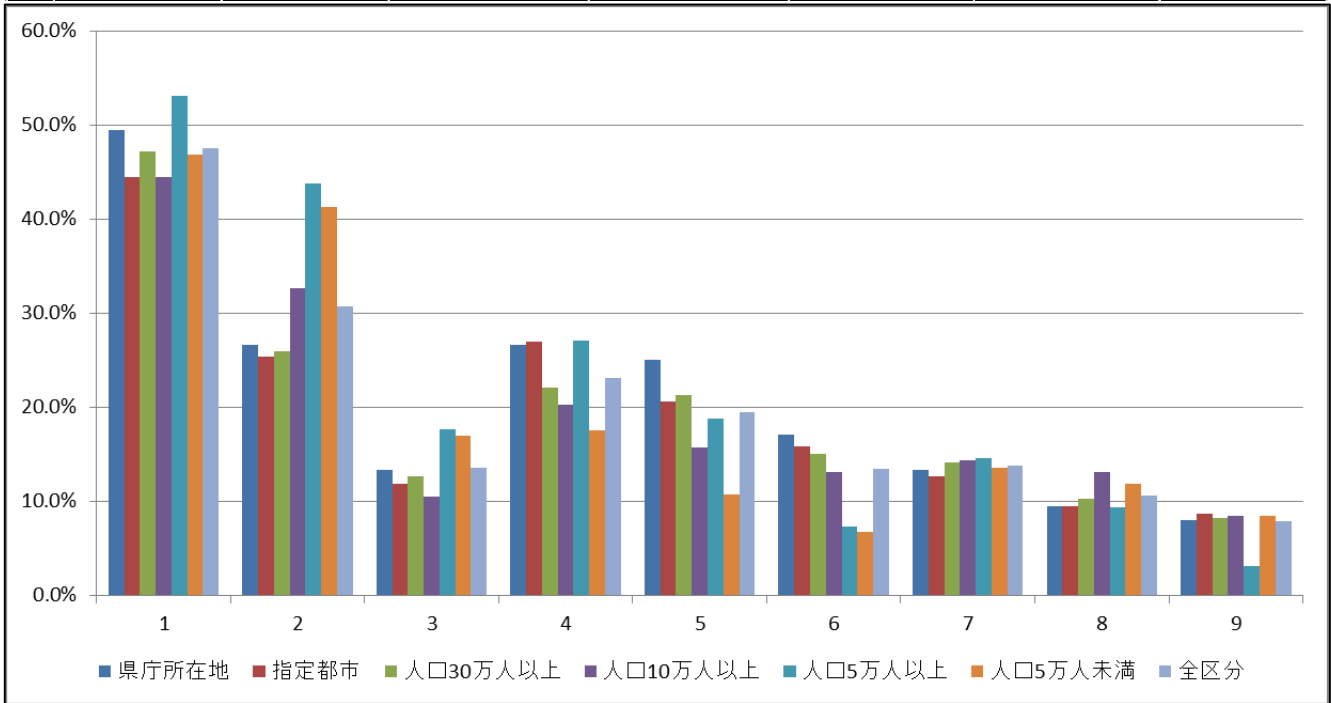
Q3 どのような実務や地域活動に活かされましたか(複数回答可)

■凡例

- 1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
- 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
- 3) 地方創生に関する事業の創出・新規起業
- 4) 地方創生に関する分析や実態把握・課題研究
- 5) 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
- 6) 地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成
- 7) 所属組織内の研修への展開・活用
- 8) その他
- 9) あまり役に立たなかった

▽市町村区分別回答者数構成比

	県庁所在地	指定都市	人口30万人以上	人口10万人以上	人口5万人以上	人口5万人未満	全区分
1)	49.4%	44.4%	47.2%	44.4%	53.1%	46.9%	47.5%
2)	26.6%	25.4%	26.0%	32.7%	43.8%	41.2%	30.8%
3)	13.3%	11.9%	12.7%	10.5%	17.7%	16.9%	13.5%
4)	26.6%	27.0%	22.1%	20.3%	27.1%	17.5%	23.1%
5)	25.1%	20.6%	21.2%	15.7%	18.8%	10.7%	19.5%
6)	17.1%	15.9%	15.0%	13.1%	7.3%	6.8%	13.4%
7)	13.3%	12.7%	14.2%	14.4%	14.6%	13.6%	13.8%
8)	9.5%	9.5%	10.3%	13.1%	9.4%	11.9%	10.6%
9)	8.0%	8.7%	8.3%	8.5%	3.1%	8.5%	7.9%



【ポイント】

- 1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
全区分で40%超と高く、地域区分によらず学習面で一定の効果があることが窺える。
 - 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
人口の少ない市町村ほど割合が高く、人口5万人以上43.8%、人口5万人未満41.2%と地域の中核市と考えられる県庁所在地より14~17ポイント高くなっている。
 - 3) 地方創生に関する事業の創出・新規起業
全区分を通じて10%台にとどまったが、5万人前後の市町村では比較的高くなった。
- 以上から、学習効果は地域間で大きな差は認められないが、実用面では比較的人口の少ない地域の方が活かされていることが窺える。

(2) 年齢区分別

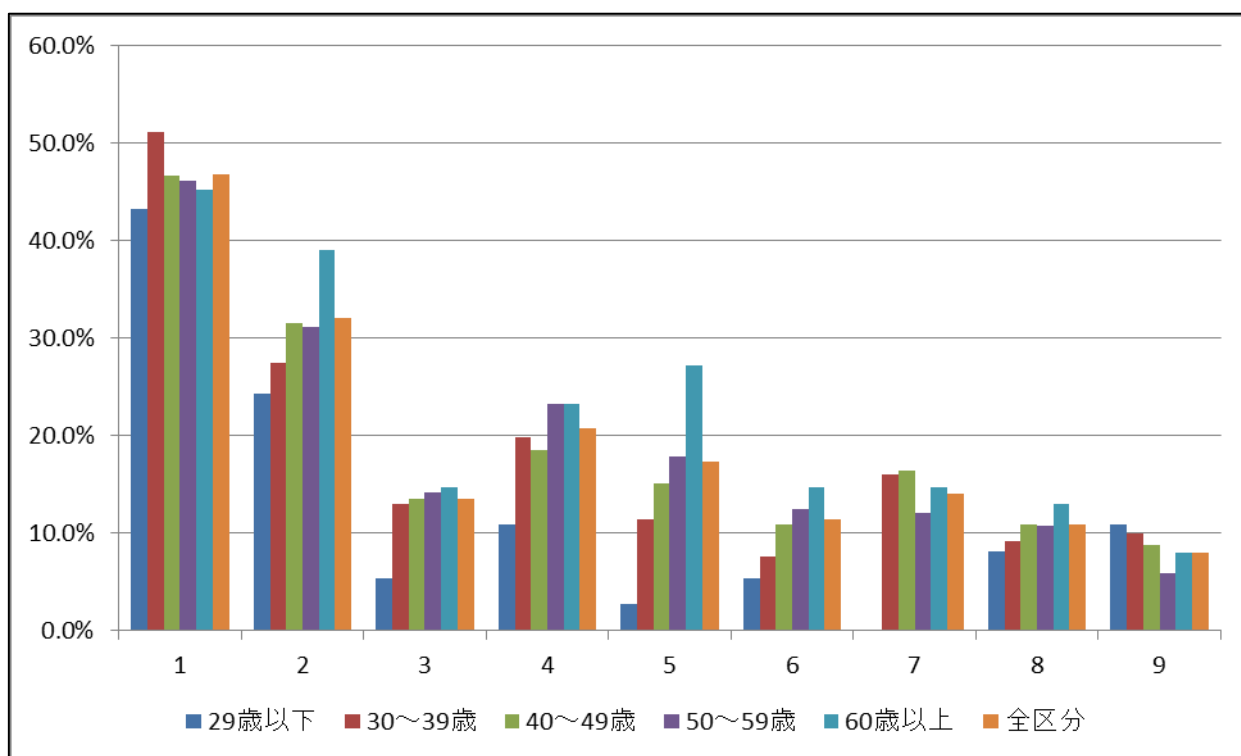
Q3 どのような実務や地域活動に活かされましたか(複数回答可)

■ 凡例

- 1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
- 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
- 3) 地方創生に関する事業の創出・新規起業
- 4) 地方創生に関する分析や実態把握・課題研究
- 5) 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
- 6) 地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成
- 7) 所属組織内の研修への展開・活用
- 8) その他
- 9) あまり役に立たなかった

▽ 年齢区分別回答者数構成比

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	全区分
1)	43.2%	51.1%	46.6%	46.1%	45.2%	46.7%
2)	24.3%	27.5%	31.5%	31.1%	39.0%	32.0%
3)	5.4%	13.0%	13.4%	14.1%	14.7%	13.5%
4)	10.8%	19.8%	18.5%	23.2%	23.2%	20.8%
5)	2.7%	11.5%	15.1%	17.8%	27.1%	17.4%
6)	5.4%	7.6%	10.9%	12.4%	14.7%	11.4%
7)	0.0%	16.0%	16.4%	12.0%	14.7%	14.0%
8)	8.1%	9.2%	10.9%	10.8%	13.0%	10.9%
9)	10.8%	9.9%	8.8%	5.8%	7.9%	8.0%



【ポイント】

- 1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
全区分で高い回答となったが、30歳台で51%強で、他の区分よりも5ポイント近く高い。
 - 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
年代が高いほど割合が高まる傾向にあり、特に60歳以上で39%と突出して高い回答となった。
 - 5) 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
60歳以上で27%強と突出して高く、全区分平均よりも10ポイント近く高い。
- 以上から、学習効果は全世代で評価される一方、実用面では年代が高い方が活用されている傾向。

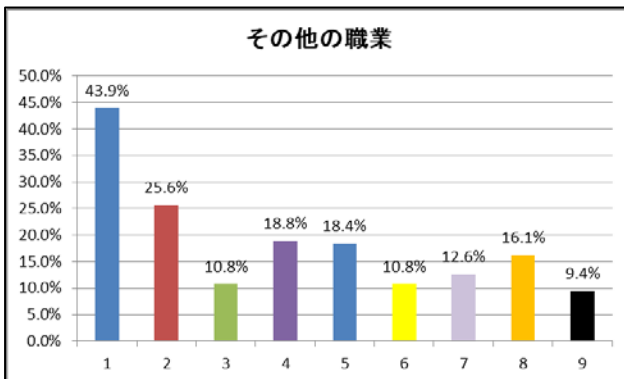
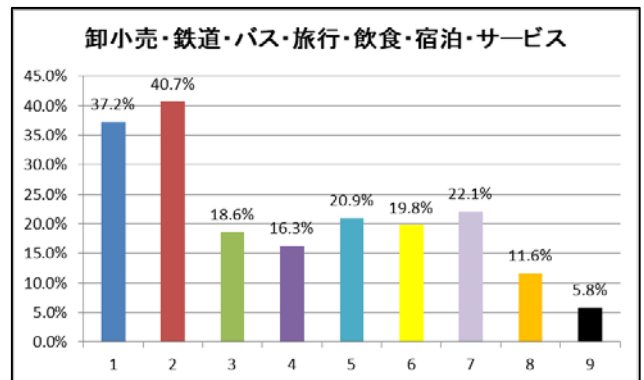
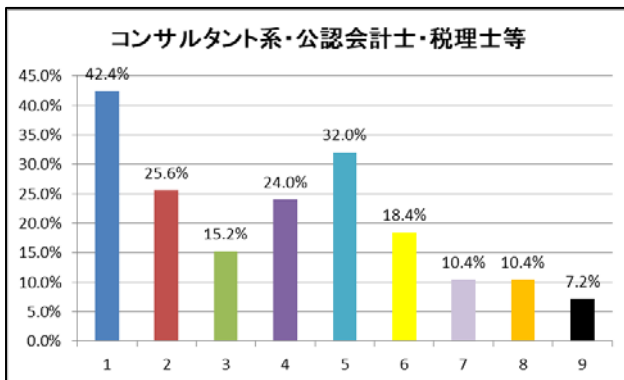
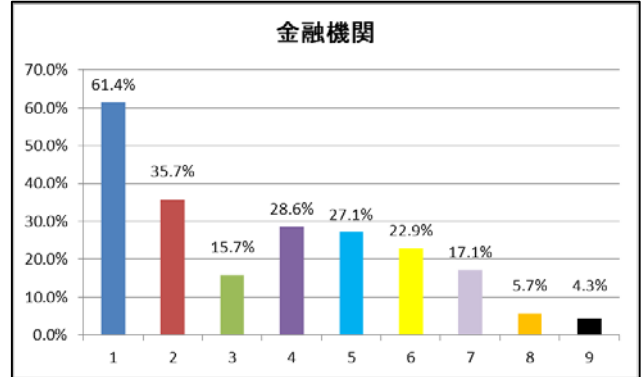
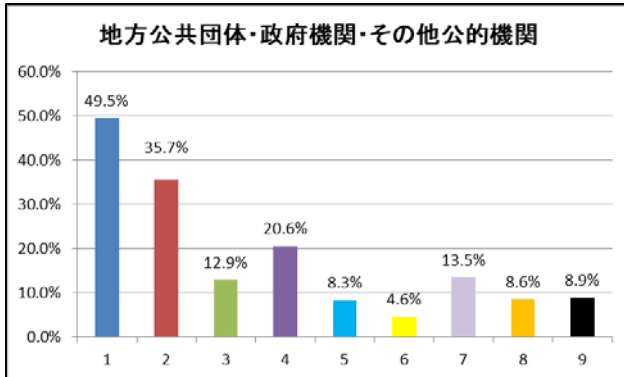
(3)職業区分別

Q3 どのような実務や地域活動に活かされましたか(複数回答可)

■凡例

- 1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
- 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
- 3) 地方創生に関する事業の創出・新規起業
- 4) 地方創生に関する分析や実態把握・課題研究
- 5) 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
- 6) 地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成
- 7) 所属組織内の研修への展開・活用
- 8) その他
- 9) あまり役に立たなかった

▽職業区分別回答者数構成比



【ポイント】

「卸小売・鉄道・バス・旅行・飲食・宿泊・サービス」では 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実が40.7%、3) 地方創生に関する事業の創出・新規起業が18.6%と、それぞれ職業区分別の第1位になっており、商業や観光関連の従事者では、実務にも活かされているものと推察される。

また、「金融機関」は、1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得の割合が61.4%と突出して高いが、2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実も35.7%で2番目に高い。地域との関わりが深い中で地方創生に対する意識の高まりが窺われる。「コンサルタント系・公認会計士・税理士等」では、職業柄か、5) 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティングが高い(32%)。

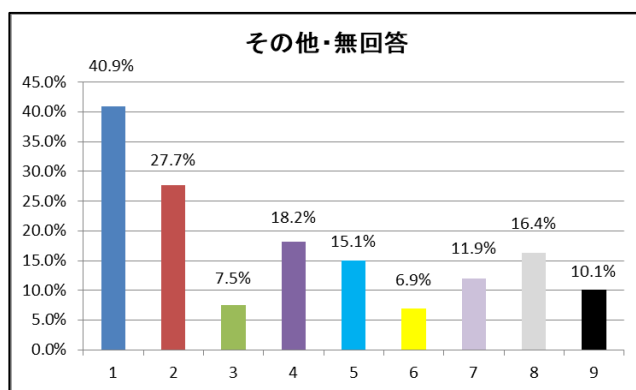
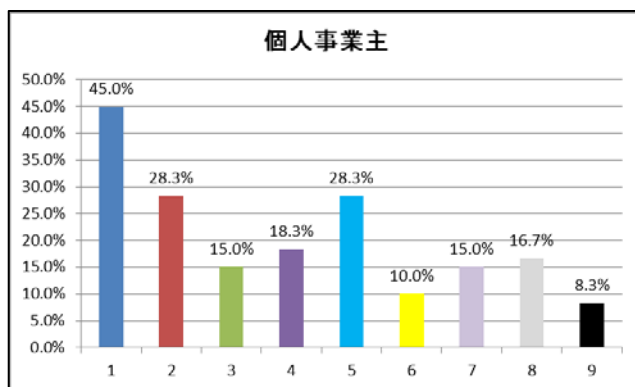
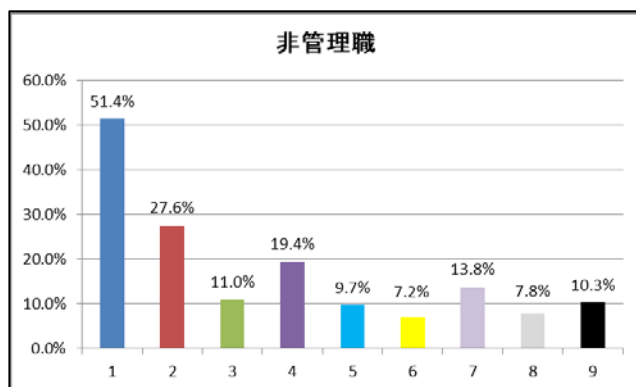
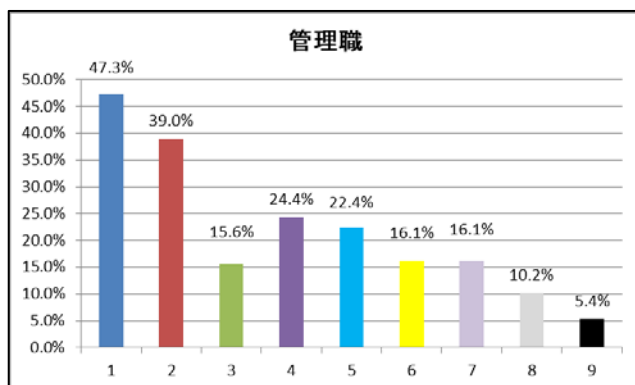
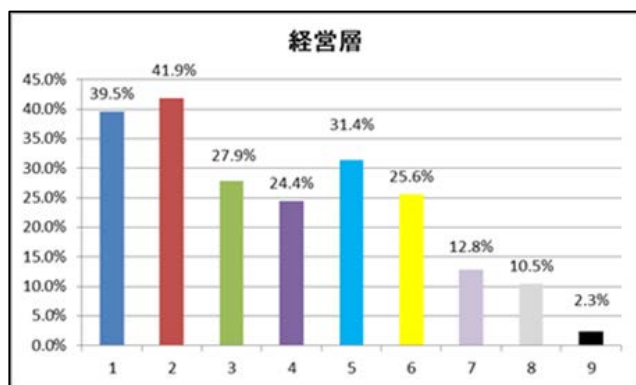
(4) 役職区分別

Q3 どのような実務や地域活動に活かされましたか(複数回答可)

■ 凡例

- 1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
- 2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
- 3) 地方創生に関する事業の創出・新規起業
- 4) 地方創生に関する分析や実態把握・課題研究
- 5) 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
- 6) 地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成
- 7) 所属組織内の研修への展開・活用
- 8) その他
- 9) あまり役に立たなかった

▽ 役職区分別回答者数構成比

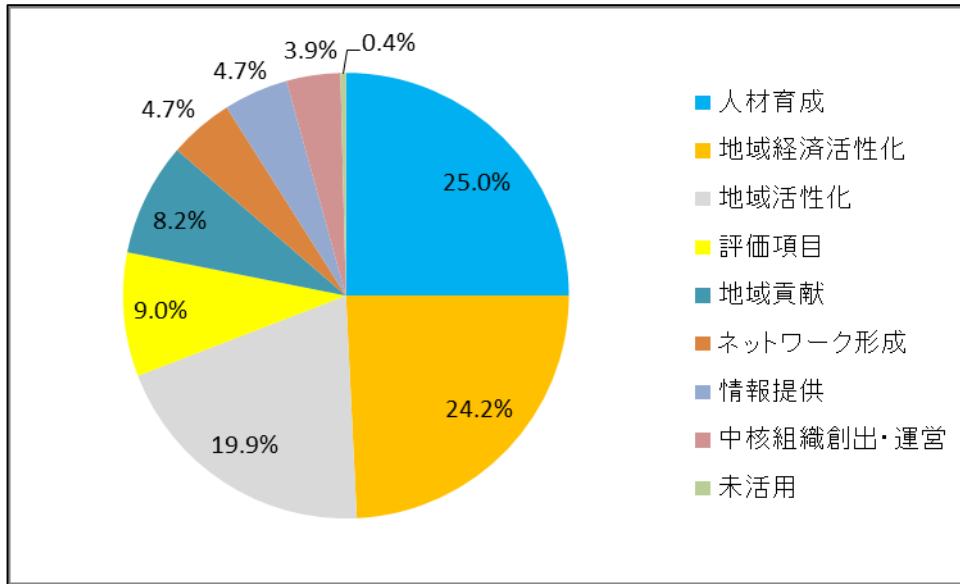


【ポイント】

大半の層で1) 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得の割合が最も高いが、「経営層」では、2) 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実が41.9%と最も高いことが特徴なほか、3)~6)の実務的な項目でも他の階層より高い結果となっており、リーダー的立場で地方創生の推進主体となっていることが窺える。他方、「非管理職」では、1)が50%超と他の階層より高い一方で、2)は27.6%と他の階層よりも低く、地方創生に関する学習意欲と実践度合でやや開きがある結果となった。

4. 自由記述

Q3「どのような実務や地域活動に活かされましたか。(複数回答可)」



設問Q3「どのような実務や地域活動に活かされましたか。(複数回答可)」の具体的な事例として回答された項目について記述内容を検討の上分類したところ上位3位で69%強となった。回答上位3位までの特徴的な回答は下記の通り。

○人材育成に関する記述

- ・人材育成事業に関して、ファシリテーションスキルや行政マーケティングの手法など、職員研修に良さそうなものを選んで受講し、講師を実際に現地に招聘した。(30代・公務)
- ・地域づくり人財の育成団体(任意団体)を設立し、活動している。社会福祉協議会、地元の農業高校とともに、域学連携事業として市の補助金も利用しながら、農村振興活動を行っている。(50代・ビジネスマン)
- ・若手経営者塾を運営し、若手経営者の育成・創業支援を行い、4期生を迎えこれまでに106名が卒塾。市が主催するビジネスプランコンテストに多くの塾生が応募。(50代・金融)
- ・数多くの講座を聴講し、興味のあるものは何度も何度も聴講しています。事例にあった場所は出来るだけWebで調べたり、実際に訪問してみたりして、より深く学べるように心がけています。(60代・公的機関)

【ポイント】

第三者を育てる活動(研修、勉強会、ワークショップの開催等や何らかの人材育成活動)だけでなく、自分自身のスキルアップ向上へも活用されていることが窺われる。

○地域経済活性化に関する記述

・お客様と一緒に地域活性化策を検討し、インバウンドモニターツアー企画に参画した。(60代・サービス業)

・県等の企業誘致コーディネーターとして、県外からの企業誘致に従事しました。また、ものづくりや農業のスマート化、IoTや人工知能などの活用を通じた地域産業の活性化を通じた地方創生に取り組んでいます。(60代・サービス業)

・地域の特産品や伝統産業のブランド化に関する事業計画、販売促進計画、商品開発などを展開した。また講義資料としても活用した。(40代・サービス業)

【ポイント】

新規事業創出、地域特産品・ブランド品の開発、ベンチャー設立・支援、観光振興、農業活性化など、地域経済の活性化に資する活動に活用されていることが窺われる。

○地域活性化に関する記述

・地方創生カレッジの事例を参考にまちづくりに取り組んでいます。イベントなどで地元のジビエを使った屋台を出店した。(40代・公務)

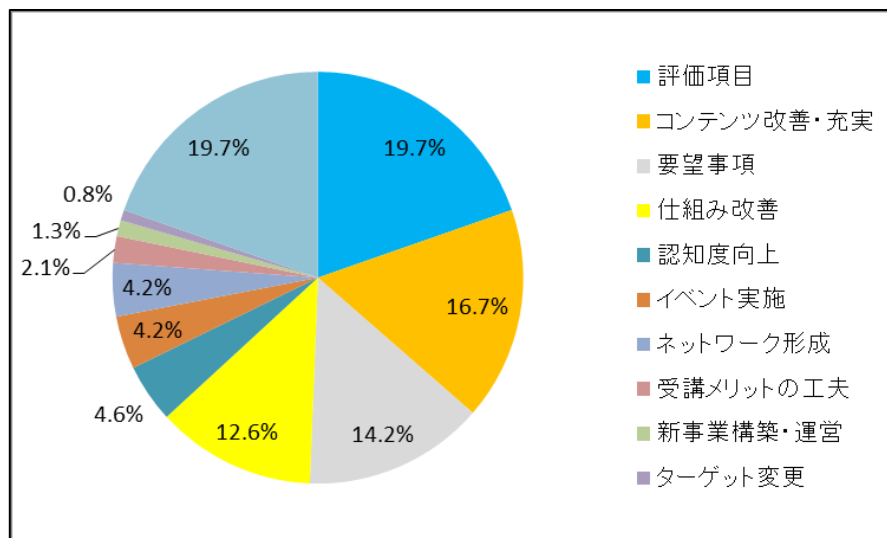
・薬膳を駅前活性化およびまちづくりに活用する時に参考にさせていただきました。活動仲間にも同サイトを紹介し情報を共有することができました。(50代・サービス業)

・新産業技術による地方創生(物流、交通、医療)について、製造、流通、情報通信、ITベンダーに企画提案をおこなった。開発力のある企業、事業者は都市型の支店しかもたないため、地方創生カレッジにて習得したスキルをもとに地方の特性を織り交ぜて理解してもらうことで、事業者の独りよがりなシステムではなく、適切な提案やシステム選択をスムーズに行うことができた。(40代・公務)

【ポイント】

商店街やコミュニティの活性化、イベント開催、まちづくり、移住、地方創生戦略の立案など、「経済」ではくりにくい地域活性化活動にも活用されていることが窺われる。

Q7「地方創生カレッジについて、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください」



設問Q7「地方創生カレッジについて、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください」の回答で記述内容について検討の上分類したところ上位3位で過半数(50.6%)となった。回答上位3位までの特徴的な回答は下記の通り。

○効率性に関する評価

・時間的な制約がなく、いつでも学べる現在の運営方法に満足しています。可能であれば、このまま無料で受講ができれば嬉しいと思っています。(50代・個人事業主)

・なかなか時間がなくあまり受講できませんが、有意義な内容が多く、今後も活用していきたいと思っています。(50代・金融)

・通勤時などの隙間時間に学習しやすい長さ、映像を交えたわかりやすい内容で大変勉強になりました。ありがとうございました。(50代・管理職)

・興味のある講座を横断して受講でき、面白く学べ、有り難く感じています。忙しくて途中で受講を放りっぱなしにしている時もありますが、また、時間のできた時に、必要なところから受講でき、実務者にはぴったりの学びの形と感謝しています。頑張っている方が出演されているのも、とても励みになります。不真面目な受講生ですが、とても役立っています。(50代・個人事業主)

・講座の所要時間が「○時間」とあるのを見て、まとまった時間のいるときじゃないととても無理だな、と、なかなか進められませんでした。始めてみると細切れに受講出来ると知り、それなら早く始めればよかった、と思いました。eラーニングは忙しい中の空き時間でできるので、本当に助かります。(40代・個人事業主)

・今は仕事、家事、育児に精一杯で地域貢献がなかなかできませんが 余裕ができたなら育児経験を生かしてみたい。自分のペースで学習できたのでよかったです。(40代・個人事業主)

・現在、子育て中で無職ですが、職を得た時に今回学んだことを活かしたいと思います。隙間時間で、映像で学習出来るので、わかりやすかったです。(40代・無職)

【ポイント】

時間帯や拘束時間、場所などに制約されずに受講できるeラーニングのメリットを評価する記述が多く、地方創生カレッジの意図したことがある程度達成できていることが窺われる。

○コンテンツの改善・充実～事例の充実について

- ・地域資源の発掘についてもっと掘り下げた事例がほしい。一次産品や観光資源が中心で地方の良さをアピールするという視点に閉ざされている。学校や会社の地域の中での役割を変えて、人的交流を活発にするような施策があれば紹介して欲しい。(50代・個人事業主)
- ・地域の実践事例をより多く紹介してほしい。特に、高校生や大学生の取り組みを知りたい。講義型のは一般化するのに難度があるので、地域に応じた実践をするには、具体例を集積したほうが学習しやすい。(70代・個人事業主)
- ・地域のトピックス、先進事例の紹介を進めてもらいたい。(50代・個人事業主)
- ・資金的な面で、うまく回っていくのか、という点に特に関心があります。全国の成功事例が、実際どのように資金的に回っており、継続的な活動となっているのかを紹介する講座があれば、是非受講したいです。(50代・金融)
- ・成功事例だけでなく失敗事例の情報も収集して欲しい。地方経済に関する統計情報を体系的に検索できるサイトが欲しい。地方創生に関わる公募情報をまとめて欲しい。(40代・個人事業主)

○コンテンツの改善・充実～地域課題への取り組み

- ・ニュータウンのオールドタウン化の状況と対策をもっと知りたい。ニュータウンに移り住んだ団塊世代が70歳を超えている、10年経つと80歳を超える。田舎の地方創生ではなく、都市近郊のニュータウンをどうするか、のほうの影響が大きいと思う。2030年から2050年の間に、消えるニュータウンが多数発生するのは確実、どのように消えるのがいいのか、これを考えないといけないと思う。(60代・サービス業)
- ・地域によって格差や地域性があるので、エリア(地域)に特化した講座があっても良いと思う。首都圏でも地方よりも創生、活性化が難しい課題がある。地域を特集した講座があれば、ぜひとも受講、参加してみたい。(40代・管理職)
- ・小規模な自治体だと職員数も少なく、官民連携の取り組み方法やノウハウもないため事業化が図れない現状があります。そうした小規模自治体向けや小規模な自治体同士が一体で取り組めれる内容をご教示いただければと思います。(40代・公務員)
- ・地域おこし協力隊として、地方自治体のルールの中で活動しなければならないこともあり、基本的なことを学ぶのに大変役立ちました。様々な分野での講座を聴講させていただいていますが、中でも興味深い「地域づくり」や「農山村漁村」「地域商社」、また地方創生の基本的な考え方を聴講することで、自分自身の立ち位置を考えてみたり、方向性を見出したり、事例を数多く知ること、相談する人が身近にいないこともあり、大変助かっています。(60代・公務)

【ポイント】

事例や地域課題に即した情報の充実を期待する意見が多く寄せられている。一部の受講者には、具体的な課題の解決のための情報源として地方創生カレッジが位置づけられていることが窺われる。

○要望事項～地方創生に関する学習の意義

・無料で利用できることに感謝の念と課題の根深さを再認識しました。「ちゃんと利用して活かしたい」という思いが湧きました。本サイトは、意識高い系の人たちが(仕事をしている感を出すために)アクセスするものではなく、本サイトにアクセスしたことを契機に当事者意識を深くされた方々が何らかの行動を起こしてくださるものとして、更に洗練されることを期待しております。(40代・コンサルタント)

・これまで地方においてこのような講座を受講したくても、機会が無く諦めていましたが、本制度を知ってから時間の許す限り、受講するようにしています。また、参考になる講座は繰り返し確認的に復習をしています。

受講生同士の意見交換欄がありますが、なかなか時間的制約があり投稿できない状況です。今後とも社会の動きに即した講座内容を希望します。(60代・公的)

・地方に住んでいる事、またこの種の仕事に就いた事がなかった為に、学ぶ機会を持つ事が難しい状況にありました。地方に住む私にとっては、願っても無い取り組みで、本当に嬉しく思っています。ここでの機会を通じて、更なる学びと、地域での意識向上に役立つ事を期待します。出来れば、長く続けて頂きたいです。(40代・経営者)

【ポイント】

地方創生カレッジが、情報面で地方創生への関心を高める一翼を担うことで地方創生の機運を高めていることが窺われる。

「地方創生カレッジ事業」アンケート調査票〔FAX用〕

地方創生カレッジ事務局

本アンケートは、「地方創生カレッジ」に登録された方を対象にご協力をお願いしています。

今回は、地方創生カレッジが創設4年目を迎える中で、受講者の方々の属性やカレッジでの学びがどの程度実際の業務等に活かされているかといった観点で現状を把握することを主な目的としております。地方創生カレッジをより良いものにしていくためにも、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ご回答者の情報をお教えてください。

※記入いただいた個人情報、調査結果の内容照会やお問合せ等のみに利用され、目的外の利用は致しません。

①ご氏名(必須)			
②Eメール※(必須)			
※「地方創生カレッジ」で登録された際のメールアドレスをご入力ください。			
③都道府県(必須)		④市町村	
⑤職業(必須)		⑥役職 〔1つに回答〕	1. 経営層 2. 管理職(部長・課長等) 3. 非管理職(一般従業員等) 4. 個人事業主 5. 学生 6. その他
⑦生年月日(必須)	西暦		年

地方創生カレッジ事業について

Q1.地方創生への関与度合(程度)についてお聞きします。〔1つに回答〕

1. 現在、地方創生に関連した活動・業務に従事している
2. 以前、地方創生に関連した活動・業務に従事したことがある
3. 地方創生については知っているが、活動・業務に従事したことはない
4. 地方創生について具体的な内容は知らない

Q2.地方創生に関する業務経験についてお聞きします。〔1つに回答〕

1. 未経験
2. 1年
3. 2年
4. 3年
5. 4年
6. 5年以上

Q3.どのような実務や地域活動に活かされましたか。〔複数回答可〕

1. 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
2. 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
3. 地方創生に関する事業の創出・新規起業
4. 地域経済に関する分析や実態把握・課題研究
5. 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
6. 地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成
7. 所属組織内の研修への展開・活用

8. その他

具体的に記入

9. あまり役に立たなかった

●上記1～7の選択肢にご回答された方は、差し支えない範囲で具体的な事例をお聞かせください(任意)。

--

Q4. 地方創生カレッジの良かった点をお聞かせください。【複数回答可】

- 1. 関心のある講座テーマがあった
- 2. 講座の内容が専門的で知識向上に役立った
- 3. 所要時間がちょうどよかった
- 4. 受講料が無料だった
- 5. 場所や時間の制約のないeラーニング形式がよかった

6. その他

具体的に記入

Q5. 地方創生カレッジの関連サイトの「連携・交流ひろば」の利用状況についてお聞かせください。【1つに回答】

- 1. 閲覧のみ
- 2. 閲覧と書き込み
- 3. 利用していない
- 4. 存在を知らなかった

地方創生「連携・交流ひろば」は、地方創生に携わる関係者が知見を共有し、相互にアイデアを提案するためのプラットフォームで、交流や質問のできる掲示板や地方創生の取組に参考となる事例などを豊富に掲載しています。

URL <https://www.chihouseusei-hiroba.jp/>

Q6. 「連携・交流ひろば」における以下のコンテンツのうち、特に関心のあるものをお聞かせください。【複数回答可】

- 1. 交流掲示板
- 2. 実践事例
- 3. ビデオライブラリ
- 4. 地方創生応援プロジェクト
- 5. 地方のしごと・暮らし
- 6. 全国穴場マップ
- 7. Dancyu
- 8. その他

具体的に記入

地方創生カレッジに関するご意見・ご要望

Q7. 地方創生カレッジについて、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

アンケートは以上で終了です。ご協力いただきありがとうございました。

アンケートの返送方法

ご記入が終了しましたアンケートは大変恐縮でございますが、下記の番号宛てまでFAXにてご返信をお願いいたします。



FAX番号

03-5823-4320